

千代田区観光スポット・街並み

東京23区の中心に位置し、皇居をはじめ個性豊かな街が広がる、千代田区。

地下鉄やJR線が縦横無尽に走り、アクセス抜群の千代田区には、政治の中心地となる国会議事堂がある霞が関・永田町や、古くから続く学生の街神保町・お茶の水、サブカルチャーの中心地である秋葉原など、見どころが満載のエリアが盛りだくさんです。

皇居(二重橋)



皇居正面に見える優雅な石橋。手前の「正門石橋」と、すぐ奥にある「正門鉄橋」の二つの橋を総称して二重橋とも呼ばれていますが、厳密には奥の橋を指します。通常は使用されず、新年の一般参賀や外国賓客の皇居訪問等宮中の公式行事の際に利用されます。

東京駅



東京大回廊写真コンテスト入選作品
「ミニチュアみたいな東京駅」 桐生 絵美

大正3年(1914年)に開業した日本の玄関口、東京駅。歴史と風格を感じられる赤レンガ造りの建物は東京の顔として愛されてきました。重要文化財である丸の内駅舎は、保存・復原工事(2012年完成)を経て、現在は創建当時の姿に復原されています。

千鳥ヶ淵



日本有数の桜の名所です。靖国通りから北の丸公園に沿って整備された、700メートルにも及ぶ遊歩道です。通りにはソメイヨシノをはじめとする約260本もの桜の木が植えられ、3月下旬から4月上旬にかけて鮮やかに咲き誇る桜を望むことができます。区営の「千鳥ヶ淵ボート場」があり、お濠の水面から桜を仰ぐこともできます。



靖国神社

明治維新の戦死者慰霊顕彰のため、明治天皇の命により明治2年(1869年)に建てられた「招魂社」が始まりです。明治12年(1879年)に「靖国神社」と改称され、令和元年に創立150年を迎えました。境内には御祭神の遺品や史資料を展示する「遊就館」があり、桜・イチョウの名所です。

《灯ろう流し》



千鳥ヶ淵を舞台に、日本の伝統「灯ろう流し」が催されます。東京都心の夏夜に、人々の感謝や希望、平和への願いを込めた2,000個の灯ろうの光がお濠の水面に揺らめき、幻想的な風景を創り出します。



《みたままつり》

東京の夏の風物詩として親しまれている「みたままつり」は昭和22年に始まった戦没者のみたまを慰める夏まつりです。期間中、境内には大小3万を超える献灯、懸ぼんぼりが掲げられ、夜空を黄色に彩ります。

日本武道館



昭和39年(1964年)に開催された東京オリンピックの柔道競技会場として建設されました。日本の武道の中心地です。武道場としてだけでなく、さまざまなイベント、特にコンサート会場として使用されていることでも有名です。建物は法隆寺夢殿を想わせるもので、正八角形で擬宝珠を載く銅版葺き屋根が特徴です。



日比谷公園

明治36年(1903年)、日本で最初に誕生した近代洋風公園。ビジネス街のなかにある緑のオアシスで、噴水や花壇、日本庭園式の池などが整備されています。新緑や花、紅葉など、園内の木々が四季を通じて訪れる人を楽しませます。園内には公会堂、大小音楽堂、図書館などがあります。(現在改修工事中)

国会議事堂



国の唯一の立法機関として、法律の制定や予算の議決、内閣総理大臣の指名など国会の議事を行う殿堂です。南北の幅206メートル、中央党の高さ65メートルを誇る「国会議事堂」。中央党を境にして左側が衆議院、右側が参議院です。建物正面には約300メートルある銀杏並木が続き、黄金ロードの名でも親しまれています。



日枝神社

鎌倉時代に創祀。厄除け、七五三詣、安産祈願で多くの参拝客が訪れます。6月には、日本三大祭の一つとして数えられる「山王祭」が隔年開催で行なわれます。神幸祭では約300mの祭礼行列が練り歩く現代の王朝絵巻は圧巻です。

秋葉原電気街



電化製品店が建ち並ぶ世界有数の電気街です。昭和の高度経済成長期から家電ブームから、パソコン・マルチメディア時代、コンテンツ産業隆盛期と、時代に合せて変化を遂げてきた秋葉原。そのたびに最先端の製品・技術情報が集まり、世界中から注目されています。



神保町古書店街

神田神保町には、日本最大なのはもちろん、世界最大ともいえる古書店街があります。古書店や新刊書店が軒を連ねており、その数は約180店舗。本が日焼けしないよう、通りの南側(店は北向き)に集中しています。大型の総合書店あり、小規模の専門店あり、特に古書店は専門店が多いのが特徴です。